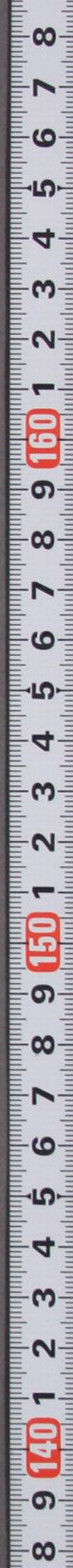


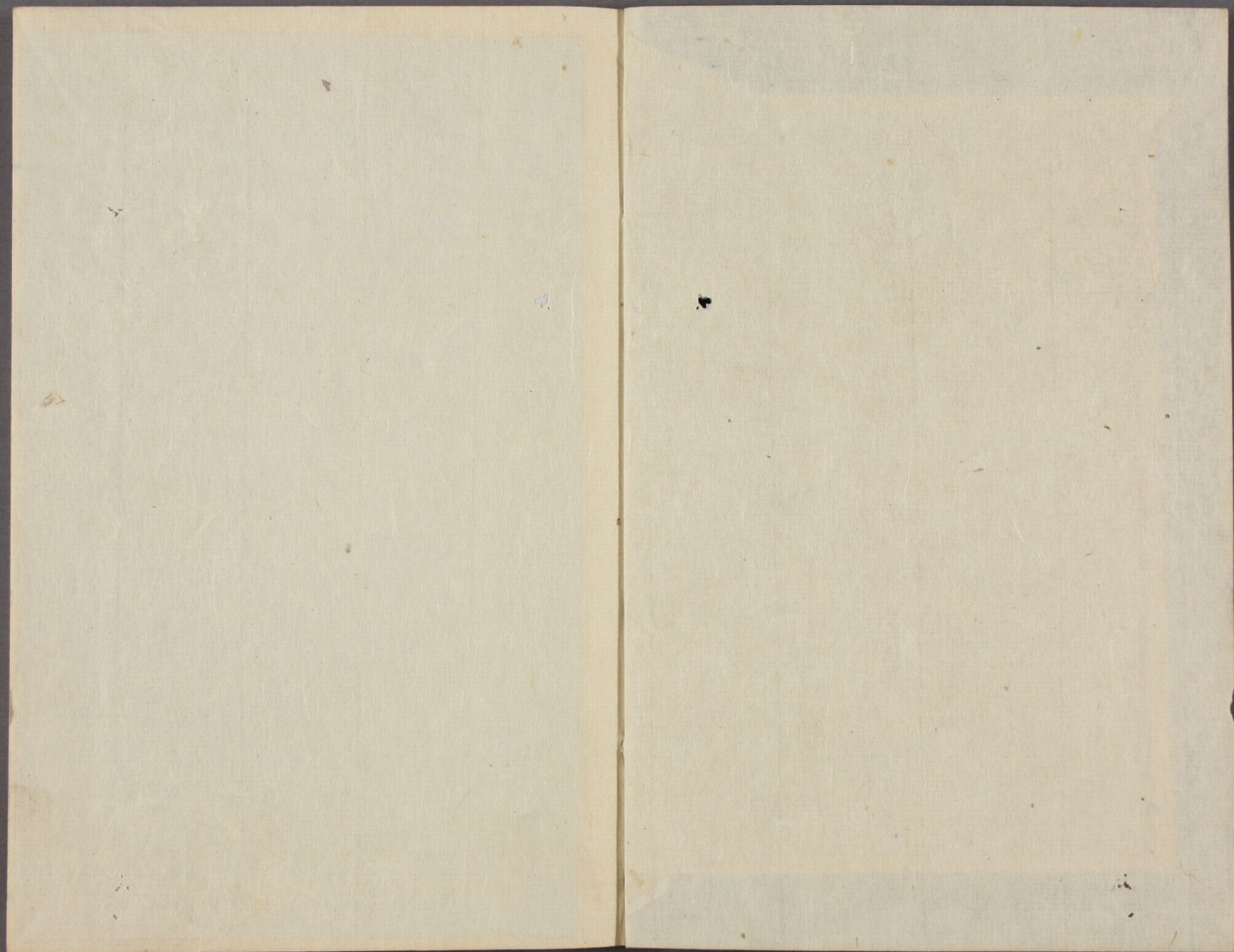


後撰集新抄

秋下

七





すハ秋風のおくかとはてまびーとささるるすよとなんべー。

歌ふべし
よみ人ーら更

花すきあよそやまね草なれどみおなさんとは頼すれなく
○落ハ実なるぬおなり。うばへの花ーき人き万ことすくなきを
いさんとのあなりと抄ふるすのめくなんべー。されど恋の
さめてはなく。たぐ大かこの世ありさ万をおもひよせていへる
なんべー。

秋風ふさそそれるるかりづのききぬるかき今日ぞききぬる
○かひて。落ハ秋風ふさされてわるといふなりながもはや其時
あきて今日ぞききぬるささるるききぬるなり。はあきてきか
るかひを雁之音のききぬるささるるすよ。かりがひと云を雁のききぬる
いへるとハ。本末のききぬるあり。

万葉十小。天雲のよそよかりづのばーよりまゝといふを。雁鳴と云
き。又同巻にも。雁之喧。雁音。菅家万葉に。雁之聲者。なども出するを。も
りふべー。
と小かりくと鳴く。と云すのききぬるを。も。又合すべー。
こーのかさ小。りふ人。ゆるる時小。

○こーのかさとハ。越前越後のきき方をいふなり。

きき

秋乃秋小かり。かりもききぬるなり。我ら人のことつてやせー
○抄ふハ。かりかもなきさハ。存やらん。ききぬるとなり。是も越武が古事
より。彼越なる人のなつかりきか。ききぬるなきかとのんなりとあり。
又。かりかもハ。かりかひの誤なり。と。かき残足といふき。残足
張起の人にて。終る。薩麻呂云。かりかもハ。即雁のききぬるべー。さ
大人のをーへりなり。

法師の餘材抄子にたまはるやてめけ。

たまきけとなくかりづ。ぞ我君のを我が末をす終るに。

○抄子君の尾花の足渡。ふ。存。の。す。ゆ。ふ。感。と。誦。なりとある。

終るべし。何。を。基。が。末。を。ハ。抄。本。に。す。と。假。ま。て。ち。う。終。ま。

ども。こ。ち。う。ま。と。よ。す。ん。も。終。る。ま。か。け。あ。ハ。や。古。き。調。ふ。す。ゆ。れ。

お。なり。たまきけとなくといふ。我。お。す。け。と。の。ん。な。ん。と。い。ふ。

余。情。を。ふ。さ。さ。る。な。り。そ。れ。ハ。三。句。子。我。君。の。と。い。ひ。末。句。ふ。と。い。ひ。

あ。て。と。ある。ゆ。て。さ。う。す。ゆ。な。り。と。い。ふ。ハ。さ。か。げ。な。り。古。今。

我。や。ど。ふ。さ。ける。な。な。と。い。ふ。人。と。い。ふ。の。人。の。足。さ。ん。な。

と。皆。同。い。

ゆき。の。人。さ。も。か。こ。も。振。な。れ。や。る。お。ど。と。ふ。う。り。と。な。く。

○存ハ何。所。と。も。振。な。れ。ど。や。毎。秋。ある。と。い。ふ。を。終。り。つ。か。

と。い。ふ。と。な。く。す。と。な。り。初。句。も。末。句。も。う。け。て。ら。は。ん。朝。夕。日。夜。

ら。かり。と。ハ。假。の。世。假。の。宿。な。ど。い。かり。ゆ。て。常。住。な。假。初。め。

み。い。る。な。り。次。二。首。は。い。へ。も。同。い。又。万。葉。十。子。ぬ。を。う。か。け。お。わ。

な。かり。ハ。お。ほ。い。と。い。ふ。を。へ。て。あ。お。の。が。名。を。の。と。も。あ。り。

て。かり。と。い。ふ。名。も。と。い。ハ。かれ。が。な。く。お。う。て。お。ほ。せ。る。す。

畧。解。や。も。そ。い。ふ。と。い。ハ。す。べ。て。草。木。鳥。獸。な。ど。の。名。大。う。い。ハ。其。形。

を。お。も。い。れ。ど。い。ま。密。其。時。等。な。ど。い。ふ。う。て。お。ほ。せ。る。物。と。

と。ま。く。も。い。考。へ。ど。

お。ど。と。ふ。ま。れ。ど。か。き。バ。た。の。お。ぬ。を。お。う。た。つ。かり。と。の。と。な。く。

○お。も。ま。て。も。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ハ。必。う。人。を。存。な。れ。バ。ま。い。と。い。誰。も。

実。ふ。を。頼。ま。ぬ。お。を。我。ハ。假。ふ。ま。い。と。表。ふ。あ。い。と。い。時。あ。り。と。い。

却さすに里が思をなくよおのきさへかりくよめも鳴るさうさ

人のかりにまふると中をすて

みづ

とどふ雲路まどもぬかりづもろづのや杖をさるる

○雲霧深き水國の空ハ、月けも来ふべきを、おどろけてゐるハ、自然
と、比喩方へ来るべき時を知その故やあらん。かくも年毎に遠ハ
ど来るハ、よひなきなりし。　んづのハ、んづのとよひなきなり。
かまじごとくともよひなきなり。

つち助辞といはんがめい。よひうら
なみのつちうらななどの詞みえ

おな 古今^下 東風も花のあつらひよきてあけらづうらやうのふ
とらんなど考へ合すべし

やうとふまかりける時こそかきともや

○ともゆきも 徳共^{モロトモ}みそと云ふとす也 陪從^{トモ}のききも阿^アふ

るべし

よき人あふま

天川かりぞともふさき山乃^{もろとちを 万代集}こそあきう人も毛づきふなり^{ふらね}

○藤の雲路をわするをやうて其雨の川のなと天上なると同名なる

ゆきふ思ひよせてあやとせるなふし^{とわするも川の源流な}

星^{川門水門など} 天川ハ大和^{古野} 中も河内^{安野} あもありはあふ

よきハ詞ふふするにたれの方なるべし<sup>ま本抄曰く後成ハ古野
山花やちるらん 天乃川</sup>

まのつみをあふ白波 師光朝臣 雲の色をむと川かこえて天川
くもけうけとやみよし時の山とあるなどハ大和國にて 統後攝
ふ為承平 天川をききわたりふなりわたりかきのみので月雨の
ころ新給達ふ 津守國助 蜀かきぬ天の川系やうかきま 交野か
花の蔭なかりせばとあ 佐保山ハ大和^上 なる

兼輔朝臣 左近少将と侍る時むさしの侍馬むかへふまかりと
つ日ふそかきさばるるありてかきりふおなトつかさの少お
てむかへふまかりてあふ坂より随分をひいていひおたりはべ
るけり

菅原忠房朝臣

○近衛の中お少おふも左近少将人つたり 職原抄なふ
えり 兼輔朝臣ハ延喜十三年 左近少将藏人十七年 藏
人頭 忠房朝臣ハ延喜十一年 左近少将 十八年 四位上少将と

公卿補仕不足なり。侍馬迎ふ。毎年八月の十五日。但右
五日なり。かども。朱雀院の時國忌あり。十七日。廿日。廿三日。
よりて後。十六日。小なり。なり。廿八日。小。信濃。甲斐。武藏。上野の國より。牧馬ミカドををるを。近衛
司の。達坂まで迎へらるなり。廿日。小。武藏。國。小野。侍馬
四十匹。秩父。侍馬廿匹。立野。侍馬十五匹。など。なり。延喜式。
幸中行事。注。等。補仕。は。弱迎の使ありて。出。まんと
せし。時。小。俄。小。故。障。出来。れど。同官の忠房。朝臣。代。りて。達
坂。子。是。より。後。召。具。せ。る。なり。隨。身。を。京。子。ゆ。りて。は。衣。を。衣
補。仕。の。許。に。お。う。る。なり。隨。身。ハ。ズ。井。止。と。花。を。餘
情。を。小。職。より。て。隨。身。を。給。ふ。ハ。か。ぎ。り。有。り。出。仕。の。び
小。よ。の。考。め。し。る。なり。是。等。か。時。小。あり。か。ひ。て。一人。づ

を。一。わ。り。を。か。り。の。隨。身。と。い。ふ。なり。假令。納言。の。大。將。以下
も。左。ハ。右。ハ。右。の。番。長。一人。近。衛。五。人。す。べ。て。六。人。の。隨。身。致
ゆ。さ。れて。召。具。さ。る。なり。その。う。へ。小。拜。賀。な。ど。の。時。ハ。於。監
物。曹。府。生。を。又。一人。づ。具。さ。る。を。一。員。と。も。か。り。の。隨。身。と。も
い。ふ。なり。い。づ。れ。も。皆。地下。の。輩。な。う。と。い。ふ。なり。但。隨。身。を
か。へ。る。より。ハ。空。り。たる。例。に。ハ。あ。ら。ざ。る。べ。く。思。は。る。お。坂。子。一
ど。り。有。る。べ。き。なり。就。き。ども。は。衣。を。か。へ。ん。料。の。と。小。か
へ。さ。る。べ。き。なり。は。も。あ。ら。ざ。る。ハ。何。か。衣。の。返。さ。る。べ。き。なり。と。い
か。へ。さ。る。ハ。序。小。衣。を。ば。も。の。せ。ら。る。なり。と。い。ふ。なり。然。る。に
考。ふ。べ。し。

秋。務。乃。乃。乃。野。の。弱。を。む。く。と。記。ち。ん。の。り。て。考。め。る。ひ。き

了得勢と云ふなり。

おたてなきぞおぬべき秋山本務ふ友まづもせ。麻子もあつても
 ○お子ハ。秋の務ふ友まづけりて麻子の友ハ。秋の感情を催されて。あ
 もな加まぢーきんなるべし。とあまども。今お子ハ。秋のあつたあつ
 で。お新などのあつたべし。初二句ハ。おをたてておぬべきとち
 のせし。とつたをたて。お子ハ。な加まぢーきんと
 いへるを。秋たがへて。秋の山べき。務
 乃まぎれよ友を失ひて。おぬよく。おをあげて。おと麻子もあつたあ
 ども。おもは麻の如く。おをあげてなきぬべきとちのせし。と
 よといへふなれど。下句も。たつたつて。といはん。秋のそにき
 あつて。お子ハ。人のあつたを失ひたる。なまぢーきつたつて。とちのせし。

ありげ小波ゆきば、意難などあてあぐりともふなり。
すべて。葛
たつぬ。又

萩のいあゝのど。なとりうち。ち。ち。お。さ。の。さ。戸。子。いとよく似るを
し。う。なり。今世の俗おも。萩デハ針イガ云くといふ事。考多くあり。

なまどつせ。ハ。お。も。く。と。友を足勢して。けるを分る。権記巻

小朝務小友迷せる麻枝春を大かへやま所それともきく。又捨

送。久されが佐保の川原乃川風小友まどハせるふ多くなり。な

ど多かり。

たまきけとるゑささどふさき——かのきしねをむよりなくらん
○初句 たまきけとハ、我ふきけとのんちて鳴くなん。とゑををみく
る。上ハ、同きけとなくかりが。ぞ我君の尾玉の末を
とがふちて。とある。ちをも引合せてんぬべし。
さうとらゑを。ち砂ふちかけり。ち砂ハ、山の要なる。ち。
ち中老よりくるがめし。末句ハ、

麻の妻を妻とて鳴くけれど、むよりなうらんとそいへるなり。さ
て、我が一人麻中てきくをゆく先なるなり。一首詩をハ、我
が一人麻中て、衣の長きをわづる。ゆゑも、山也の麻中、妻を、あま、
おもすが、鳴くハ、情ふきけとて、けりなり。我も、さびーさを
そよよのちや、と、なり。

おきて、かげとぞ、たのき、半乃松を、ど、秋の風、ふり、のふ
○おきて、ハ、末、く、つら、あ、でも、とい、んが、めー、あ、く、我が、頼む、
と、思、お、な、れ、ど、つ、ま、でも、新、り、あ、ま、る、な、く、も、が、な、と、なり。 乞
ゆるハ、樹本の、お、索、す、も、なり。本、索、の、も、み、づ、る、ところハ、又、本、索、の、お
る、も、の、な、れ、ど、其、秋、風、な、ど、ふ、新、り、あ、ま、る、な、く、も、が、な、と、なり。と、師、翁
い、れ、る。 二、句、か、げ、と、ぞ、た、の、む、ハ、夏、の、細、珠、な、ど、の、麻、中、て、万、葉

七、ふ、か、く、を、か、の、け、む、か、つ、を、お、頼、万、か、ど、あ、と、け、あ、の、か、げ、お、な、み
ん、か、も、と、あ、る、な、ど、の、麻、中、の、も、な、ん、か、又、ま、人、の、件、な、ど、ふ、き、り、と、
あ、あ、て、あ、く、あ、く、も、あ、る、に、か、今、ハ、あ、り、が、ハ、け、あ、な、則、索、ま、
え、さ、れ、ど、も、細、珠、な、ど、も、な、け、き、ハ、こ、も、お、考、へ、き、す、ハ、お、お、し、
ど、ま、づ、も、夏、の、麻、中、の、な、ん、く、思、え、る、なり。

ち、ハ、い、づ、れ、あ、ま、バ、い、ど、お、も、ち、ゆ、る、つ、ま、の、か、か、あ、づ、も、み、づ、
○秋、の、あ、づ、れ、の、あ、ま、バ、い、か、の、あ、い、や、く、も、さ、る、ハ、何、か、て、の、思、
さ、れ、お、索、す、ハ、と、なり。お、頼、索、と、い、ハ、物、ハ、秋、風、の、あ、く、ふ、つ、け
て、ぞ、お、も、ち、ゆ、る、さ、ほ、の、い、ま、今、や、も、み、づ、る、も、あ、る、も、た、か、て、
て、
と、あ、く、も、か、く、國、唐、の、王、維、韓、愈、な、ど、が、情、ふ、え、ゆ、れ、を、さ、や、く、より、か
ハ、こ、も、ハ、ち、ん、ゆ、を、万、葉、ハ、ま、く、黄、葉、と、ち、又、赤、葉、と、ち、有、紅、葉

いもが紐
ゆるゆるむすぐさき田山今どきみだちの市きおけふ

序のちと。思解ふええなり。かゝて。為家口抄云。或人のいさゝく。いもが

妻き彌あまも。子長これき畧なり。

なな 加一本
なな 一の
あ 一の

ゆも遠へ王。程り合せて思ふべし。 妹背山も。紀伊國なり。万葉に云。
おくれぬてまつ。あふれと紀の國乃いよせの山ふあふす。物を。
なまぐれ多し。

歌あつて

元方

おろくとも色づ。山のもみぢ葉を。おくれされど。やねくらん
○抄。通昭乃。末の落も。ものさけくや。世中のたれされど。つためし
なまぐれんを。おあや。とあり。万こと。おあは。或を。夕べ。おき。又。或
すにおき。或を。朝。きえ。又。星。お。おくれされど。つため。
かなく。さ。え。な。れ。物。なる。お。は。葉。の。ま。づ。き。も。色。こ。き。も。さ。か。
ある。も。か。の。お。くれ。され。ど。つ。た。め。の。た。き。で。深。る。お。や。あ。ん。と。云。お
て。彼。僧。正。の。奇。を。お。あ。に。さ。き。る。な。ん。あ。又。は。お。秋。ふ。り。て。よ

え。ふ。あ。あ。で。同。小。お。あ。さ。に。て。も。あ。べ。し。

立田山をこゆとて。

友のま

かくむかり。もみづる。も。乃。こ。け。き。な。や。錦。の。田。の。山。と。り。つ。葉
○錦を。た。つ。と。い。ふ。も。な。載。の。を。い。ふ。ハ。あ。ふ。べ。俗。に。云。為。立。る。り
なり。は。あ。な。も。か。く。む。かり。お。小。錦。も。紅。葉。の。色。は。き。ゆ。ふ。や。錦
為。立。の。山。と。り。つ。ん。と。い。ふ。を。な。べ。し。と。魂。麻。呂。と。云。

歌あつて

よみ人あつて

か。衣。た。つ。田。乃。山。の。も。み。ぢ。葉。を。物。思。ふ。人。の。た。も。や。なり。け。ま
○か。衣。ハ。枕。詞。に。て。末。句。も。緑。葉。なり。紅。葉。の。色。は。き。ハ。我。が。あ。く。も。の
思。ひ。あ。る。も。の。紅。葉。に。て。深。る。枝。なる。よ。ね。と。云。なり。 かくむかり

小物思ふ人などいへる人。大かゝる世間の人をさしていへる物
子て。即我身なりをいへるなり。よ。秋風ふさはまわさる。かりの
糸も物なり。人の心をよか。など。すては。秋の人の秋のなど
の人。この秋の上。よ。て。秋。秋。皆。同。ト。ん。ん。なり。
て。我身の上のすにあら。なり。秋。皆。同。ト。ん。ん。なり。
も。山城。こ。と。と。と。

要之

○守山。近江國なり。抄。山。良。山。の。禁。なり。一。説。子。野。洲。河。の。也。
森。山。と。同。所。なり。と。あり。今。思。ふ。子。古。今。ト。秋。子。此。主。持。も。
山の。ほ。り。や。と。あり。白。鹿。も。時。あ。も。い。く。も。山。ハ。下。衆
の。う。べ。も。づ。き。か。り。と。あり。ハ。け。西。の。方。と。同。じ。時。の。と。
お。や。古。今。の。あ。ハ。家。集。に。も。竹。生。あ。ま。う。づ。に。も。山。と。い
ふ。所。で。と。あり。契。仲。清。師。云。も。山。と。近。江。なり。サ。も。山。

といへる。家集に云く。もり山を。美濃路へかゝる道にて。竹生
あ。の。そ。ふ。あ。う。べ。も。ハ。同。名。美。濃。の。近。江。の。あ。や。と。い。て
ま。い。れ。が。抄。の。一。説。と。あり。方。も。す。て。が。う。

あ。一。川。の。山。乃。山。なり。も。山。も。み。ぢ。を。さ。す。る。秋。を。ま。お。け。里。

○抄。山。古。あ。う。て。ま。も。山。な。れ。ど。紅。葉。も。秋。の。ふ。ま。か。せ。た。る。ん。な
る。と。あり。あ。や。し。も。山。と。い。ふ。よ。つ。き。て。山。古。時。守。と。い。ふ
名。の。山。も。や。なり。は。向。ハ。も。み。ぢ。を。お。葉。の。名。と。い。て。い。へ。る。なり。
上。の。も。み。ぢ。も。も。と。う。な。ど。今。為。紅。葉。の。名。なり。
用。ふ。子。い。へ。る。と。も。な。り。今。為。紅。葉。の。名。なり。
ぞ。い。ち。う。べ。

か。錦。あ。り。と。の。山。も。い。ま。う。り。は。も。み。ぢ。な。が。う。と。い。て。お。け。なん
○後。を。ふ。り。と。い。ふ。山。は。あ。ま。も。今。う。り。ハ。紅。葉。の。名。なり。た。ら。ね。

きなりとひくも。毎年の同トきを。あどなぐべとひきて。似
たるひひなり。抄子ハ。もみぢ葉を人をおやそくひなりと
いど。我もあどなりとえど。そあハ。毛ハ。秋も紅子かき。ひや
なり。とあハ。二句の。見なくとひ。相の勢をつよくえくるふて。
これもし。うねまども。けはあてハ。秋もえどとひきとせん方
まき。し。某なくとひ。相。た。某。せ。と。え。き。ひ。て。秋の。相。を。
な。ど。ふ。も。え。て。て。お。を。ま。の。相。と。ハ。い。き。か。あ。て。け。く。ひ。き。う。う。万。葉
古。き。子。何。ま。し。さ。て。え。け。く。お。を。え。ど。と。ひ。き。と。え。る。時。初。二。句
も。な。だ。大。ら。か。き。我。も。あ。ど。な。る。物。と。ハ。え。ど。と。ひ。の。と。あ。て。抄。の。人
は。あ。ど。な。り。と。い。ど。ち。秋。も。え。く。な。と。え。ま。で。ハ。あ。ど。な。し。

貫之

玉うづかづき山のもみぢ葉をねもかぢふのこええわするあや

○初句ハ。かけの枕細ふて。葛城といまん料とせきまなるなり。そを万
葉ニ。ハ。ハ。ハ。思ひやむも玉うづかぢふえつ。さ。さ。さ。さ。
ぬ。う。も。と。あ。る。奇。の。細。ふ。う。て。お。も。か。ぢ。ふ。え。ゆ。と。い。まん。と。て。玉。か
づ。と。え。枕。細。を。お。き。も。枕。細。を。か。づ。き。山。へ。ひ。か。け。り。ま。た。く。ぶ。
け。奇。の。巧。なり。されど。こも。一。首。け。さ。あ。け。か。る。う。に。も。あ。い。だ。さ。て
け。あ。より。ほ。く。玉。か。づ。を。葛。城。山。の。枕。細。や。も。用。ふ。う。と。ハ。な。れ。て。
一。首。け。さ。ハ。葛。城。山。の。紅。葉。の。う。ハ。き。ふ。け。く。ん。を。さ。つ。ま。だ。
え。さ。う。時。あ。も。さ。く。お。も。か。ぢ。ふ。な。つ。う。の。ね。と。ひ。な。う。ん。か。こ。く
ふ。と。は。毎。日。を。経。り。く。う。を。え。る。な。れ。ど。数。日。あ。も。か。ぢ。ふ。え。ゆ。と。さ
な。う。べ。し。又。思。ふ。子。古。今。二。さ。さ。さ。ぬ。る。ハ。春。野。の。山。の。桜。花。人。づ。て。ハ
ね。と。ま。わ。る。か。な。ね。ど。の。め。く。き。き。や。て。思。ふ。人。の。め。き。ども。き。き。ハ

かきくたおまかげおのこええつ。つづつに月を移るすの
おとりのなきか。伊勢物語^サ。八きいさ思ひやすん玉かづ
らねまかげおのこええつ。とあるなほ思ひあふんべく
や。葛城山ハ大和國なり。

秋を移るなり。かきくたおまかげおのこええつ。つづつに月を移るすの
おとりのなきか。伊勢物語^サ。八きいさ思ひやすん玉かづ
らねまかげおのこええつ。とあるなほ思ひあふんべく
や。葛城山ハ大和國なり。

きせいけり

つみき。秋云。花系雅
心かななり。おほけ
ける。時九月八日。家
の童子。飾をきせふ
おこせ。つみき。を
又のあ。つみき。を
かへす。とて。

後山や月かきくたおまかげおのこええつ。つづつに月を移るすの
おとりのなきか。伊勢物語^サ。八きいさ思ひやすん玉かづ
らねまかげおのこええつ。とあるなほ思ひあふんべく
や。葛城山ハ大和國なり。

○華小綿をきするハ。花系雅あて。つみき。を
おこせ。つみき。を
又のあ。つみき。を
かへす。とて。

伊勢

されくれをハ。嘆きまばや。昔より。九月ごとく嘆きまさればと云
多なり。万葉巻の。美濃國タギ當耆郡多度山今云養老美泉老瀧の奇ふいひ
へゆ人の言来流老人の言かゆ水ぞあふあふたぎのせとある
なををも引合せてさとしべ。

あや——おへど長月ごとく君がえ免かきお時季はあへとぞねまふ
○抄。昔月とて。長久のあや——おへむ。此月のくふ。葉も君があふ。必句
へとなりとある。けきなまふ。——。枕まども。君があふ。君が代などい
ふ君のまとい。まえざれど。人よあうりするあふて。人々をさへなる
べし。

こゝろちうり一
ほかの菊をうめ——うもて。

あふさをわかきてさける葉の花なびながうこふあふあうなれ

○板竹をハ別離ワカレて来て。あふて嘆きまされど。此を旅してハあま
ども。旅のきふて。我が嘆きまされど。あふもあふも。十分には
あふまなふ。——と云ふなり。二句。ま加まてとあうて。末句。まに
ほふとある。にんをつく。——。葉の。旧来モトハエ生てあり。——をなつと
て。ま今他コトヨあふ移したまふ。今あるはを旅といへるなり。松道秋い
づこあも葉の秋をすぐむ。——を旅とも思ふなり。なん。新古今
上。女郎花世へのあふ里山ひかてやどり。——むのあやあ。きなど
の類なり。

男のえ——まむさうなれど。

なみ葉いろをえかへ——あやうん花もまやま君もろねく
○巻深かへ——ハ。古今秋下。かある。秋の葉をば——とせふあうて。びよほ

花かどぞ見る。秋をおきて時々もけ連葉のむろろふかしに色
のまされむなどあるめく。露おほもけうろひたるさかりをい
なり。公忠集。霜中の菊をくむといふを。おほおほ色深かく
まわいつ。花のさかりもけながらん。などもあり。花もそそ
やまハ。花を賞て。葉有らむむふて。金葉のまなり。幻花。司が。おほ花
もそそやまらん。何れも春のあひまつらん。などもねなド。一
首ねそハ。古今。ふおきまあやな。さねそ花見んとうきん。君が
あよひてめくふ。但しは古今なるハ。ねつ人。などのねそ。葉の花を。
何れにそやうに。露おほもをうて。うろく。艶あやぞ。さやうに
まほひても。それうろくやと。思もやまべき。我が人乃。あもせぬの
に。とりなり。かて。けあねどハ。もとより。男の件へやすべきん

ふてよみおとす。はあれども。それを。男に對ひてきいもべし。花
に對ひての。一人ごとの。さきよりいなり。ものなり。けね。古あお
多くあやなり。古今。考下。か。さう。おほ。バ。ち。なん。ち。ぎ。とて
諸侯の娘。子。カヤウニヨミ。ユエ。同ニカケ。け。上。と。い。の。遠。鏡。の
ら。ま。う。ま。こ。と。お。お。ろ。き。み。た。お。ひ。なり。今。は。あ。な。ど。も。さ。ん
お。へ。なり。かく。さ。る。あ。ま。い。づ。き。も。な。ず。へ。て。ん。に。べし。

月夜。ふ。もみぢの。ら。を。見て。

もみぢ。葉の。お。う。る。見。ま。ぎ。長。月。の。あ。け。月。の。か。つ。な。う。ろ。し。
○古今。か。の。月。の。桂。も。秋。も。な。か。み。ま。す。れ。ば。や。り。り。さ。う。らん
を。か。あ。あ。よ。る。な。ん。か。又。た。今。ん。さ。り。あ。て。思。ひ。よ。せ。る。
あ。あ。あ。べし。末。句。ハ。抄。本。一。本。な。も。な。う。ろ。と。ある。方。二。句
の。見。ま。む。と。ある。怪。勢。に。よ。く。か。な。ひ。て。お。さ。う。さ。り。あ。す。也。

歌しらす

いづちもとおきむかしの山ごとく風よみづくあーきなうらん
○そもせむ山毎子秋くハ幾子機ありたるやーきなれむかやうに
多く秋くうんとなり。

なちざうに秋の山べをこそくれむおるぬ錦をきぬ人ぞ那ーま
野山をうけゆけざあーきをきぬうら

○なちざうにハ、まざうハあーべーといまんがめし。道遠がて。
秋の山べを越えバ人ごとく自然の錦をきぬ人となり。初句
なちざうにと。思句不織とかけ合ふ。菅原万葉むぐろハ秋の理
山をわけくまばんふもあゝぬ錦をぞき。
あゝぬ錦ハ人のま
て不織なり。万葉十三。山のべのいののみ井ハ自然成錦をもち
山かもとある自然成錦ふ同。

もみぢちをわけつゆけぞ錦きて家かへると人やえうら

○史記 項羽本記 子富貴不還故郷如衣繡夜行とあるより。故へも錦
をきて帰るといふ。又えなををバ秋の錦ともいふ。夢之系子。
句波のうさやなまやもみぢちのき残まつまかふらん。
などお多し。

あゝ

おむきていざわぎもこが鏡山をきて夢系乃あゝんかけえん
○わぎも子がも鏡といまん料あゝんハ鏡の縁候なり。鏡山
こそても越えながうといまんがめし。鏡山を越て他の所
いあハ母のゆかなる板などふよけれなるべし。紅葉の寄に
。末句。かけえんとあるをみてえん。板とはなけれど。かなうば板

のうとすゆるなり。

よき人不知

山風乃ふきのまゝくもみち葉もこのもかのもふちくぬるなり

○ふきのまゝくハ。俗子。ふく子。随て。又吹次弟小などいそんがめし。

このもかのもハ。ハ。面被面ふて。ハ。方被方へなり。拾遺。物。秋風の四方

の山よりおのがぢくみくハ。教ぬるお葉かなりぬ。とあるふや似

たり。又思ふ。古今。七条。后うせたまひける。小。おまの被。あまのこ

まさる。宮の中ハ。え。ハ。秋のお葉と人ハ。おのがちりく。まかまなど

たのむかげなり。なりはて。え。とあるなどの葉あそ。何か人ハ。秋

別くをうなどの奇や。とも思ふれど。秋の奇と云ん方

ねるべし。

秋乃おより面とすえてなりつる。そ。風ふみ。と。お葉なりけり

○後拾遺。秋の葉ちる。おをきわくか。さ。ぬきあぐれす。おも。時

ふせぬおも。

ちよりて。そ。さ。人の。ゆきさ。そ。秋の。ま。ハ。錦。あ。くら。を

○初句も。錦を裁。縁語なり。されど。こ。縁。い。へ。る。ゆ。ふ。て。奇。の。さ。ハ

裁切。さ。ハ。か。る。に。ま。あ。ハ。錦。あ。ハ。お。葉。の。お。り。お。を。い

るなり。

おの。ま。や。ハ。お。ぬ。あ。き。の。つ。と。る。ハ。雲。の。林。乃。お。葉。なり。なり

○お。ぬ。錦。ハ。人。の。ま。ハ。て。不。織。を。い。す。よ。ハ。お。ぬ。あ。き。を。さ。ぬ。人

ぞ。ぬ。き。と。あ。ハ。同。ハ。こ。の。ま。や。ハ。雲。林。院。を。い。へ。り。と。す。ハ

ま。ハ。こ。も。彼。院。お。り。よ。え。る。か。又。ハ。を。さ。き。ゆ。り。お。の。奇。な。る。べし。

魂麻呂云。雲林を人間なりぬ所の物なれど、不織錦といへる。思
ひよせしむるならん。不織錦といふも、いふ所てハ仙人など
こそさもある。世人の物ハあゝぬきういふと、世也。かくて世
雲の林ハ、彼院の名をうゑる。通なかるべし。と。院を今
宋世ホ立て。其時ハ、淳和天皇の離宮ホて。天長九年、くふ行幸あり。
雲林亭と名づけり。住より。其後、承和十年の幸ハ、雲林院と記ホ
えり。さて常康親王ヲ賜ひ。を親王ホ出。たすひて。其を通
昭子譲めり。と。お祓ふえり。拾芳抄ホ、常康親王遣ふことあり。
も中ほどの。よくあふ。いふ。魂麻呂の説のめく。な。と。さて上
下の句の間ホ、まこし。ふ。など。を。綱。を入て。ん。ゆ。く。や。云。句。の。五。字。
末句のなり。り。の。祥。甚。力。あ。れ。ば。なり。

秋風ホちる。もみぢを。を。ぬ。べ。し。あ。り。あ。く。錦。なり。り。

○女郎花を。女子。い。ひ。な。す。ハ。あ。な。れ。ば。秋。の。野。の。女。郎。む。と。い。ふ。女。の

山のあまハ。
モウハヤチ
ツタワイナ
花ノフカヌ
ホニ。足ヤウ
デアツタモ
ノヲ。と。い
は。勢。なり。

織て。我。あ。ま。く。錦。なり。よ。と。い。ふ。なり。世。と。来。秋。の。野。の。秋。の。あ。き。
を。女郎。む。た。ら。り。づ。り。つ。お。ま。る。なり。り。

あ。い。の。山。乃。も。み。ぢ。を。ち。る。に。り。花。の。さ。き。を。す。し。その。秋。

○あま。花。を。人。の。ゆ。き。を。か。す。ん。山。さ。り。風。より。さ。れ。ホ。ま。る。も。え。る。
べく

も。み。ぢ。乃。り。あ。く。秋。の。山。へ。そ。と。ち。る。て。く。や。き。錦。なり。け。ま。

○は。奇。の。ま。ハ。後。拾。遺。上。か。く。錦。も。え。え。ま。が。ふ。も。み。ぢ。の。ち。る。本。の。本。
を。我。が。ち。る。て。悔。し。と。い。ふ。を。錦。の。縁。子。な。り。と。さ。る。る。あ。り。も。何。
る。べ。裁。新。の。ま。な。ん。ホ。を。と。と。い。ふ。く。悔。し。と。さ。り。あ。べ。の。
ら。ぬ。さ。り。な。れ。を。なり。り。ま。る。る。を。な。つ。と。の。い。へ。る。も。古。今。難。上。思。

○あせなんち。浅くなれ加なり。万葉三。久かこの阿まのまゝめが
いも船のまゝ。まはハあせふるかも。なぐもあり。今の俗ふも云
廻なり。

文室朝康

なみけりてよしもかなわつて乃底のみるるも紅葉ちるやと
○わつてを海のみなり。秋を世の中は紅葉なべてもみけきば海底
の海松和布も紅葉やと波をわけて見るよしもあれかゝとなり。
東向ハ散るやとふても覚えハられど。猶あかにすゑやとの供を
あゝごらんか。一首明き世の上のあけ葉に比べて海底の海松和布
も紅葉やとて見るあて是れぬべし。もを紅葉してあつて

よいえんきくかろ^成たうちすれをなう。
わつづの

た文字を讀むを能なり。加ふるを讀むべ

冠緯考わとの底の糸云
糸中万糸ヲ云
糸渡緯海

方便海、綿津海などあるが中に、作を借字の「方便ハ」方便もて人々
よきてふくまをかりて出たりなり。されど彼とあつても正しき言ひにて。
即ちさうして云なれりなり。そむく和名都美で小領ハ古事記を
考ふるに二神のみこを生じ一倭生海神名大綿津見神云々わづらひ
の神とハ海津持の神であはるべきことをいへり。さて和名津毛知て小領
を稱す。和多多波成なり。津ハ例の助辞なり。見ハ毛知のありなり。故ル
約多と美といふ細なるを万葉の所に波津海とあはするもあれども此海
を名の假字子備一のとなり云々又和多津美を海の類するものとん
るや否。計の名より轉まるなりねずいと上つせぬ。海をわるともい
へど。神名の外に和多津美とも強名えず。又津飛などの所代の以
よりやりいけん多し。又古史万葉延喜式なども只で假字ふて多和多
郡美とみて和歌都宇美とあるものなり。いかた人のかゝつみと
よえたとはいひ初らん多をもいかで加濁りたる
々とありこれおそれゆゑにも何も明かならず。

菰原おき加是

お桑ちうう小波の所秋なれど
 ぬみちと尋もさねまぢひ
 とう

○花とまはの花をいつく。色づきたる木葉の風ふち。浦子。波もたて
ぎおきよはの花も海あふよふなふし。風のそあくと吹来る水
合せて波のむしくとまわるとるほふふ木の本の葉のむしくと
なて。海上ふ浮ぶさ方。るるづめし。

よき人うづめ

わづらひの秋ふもむらう山姫のぬきをも人をも紅葉といひけふ
○わづらひの秋ハ。海神なむしよふしんるづめし。海もぬきおきをも
山姫の海神もま命みことなりとて。さる人間のふみちとあづけ
る物も。山姫のぬきもなりなるよふなり。古今こきんト。三田姫たむる神
乃あれどこそ秋のおきぬのぬきとちとめ。とぬきもあふて。いひぬ
しことなり。なむけ。又ぬきなりハトお。小毒しとふべし。

冊子

目づらゝの秋もいふなくすゆるも秋夕ぐれもなれをなりけし

○いふわづらひ。無暇いふあて。俗にせむしなくとつふよふし。さうでも短
き秋の日の。九月の末まで。夕暮ふさくなりしれど。朝の秋もいふ方
なげよ。せむしとすゆるよふしといふなり。九月の末となりたる
るやうなれども。秋夕ぐれもとある。必秋も末
ふなりて。又夕暮ふさふと云ふとすゆるなり。

よき人うづめ

風のたものかぎりとも秋やせむしらん吹るごとくおきぬびーき
○初句ハ。四句へかけてふふし。かぎりとも秋やハ。秋やかぎりとも
いふんづめし。風の音の吹来るごとくおきぬびーきハ。九月も末より
まで。秋のかぎりともや迫せまつとんと云ふなり。かくさる。句の次
を加へて。るるるハ。実

うへは又かくはまなくの——あひて。我は物思ひを候ふも
あるまじき事なり。大かこのき。後一ヒトハリ通のとなふ
ちかし。

だいふく

よみ人 も 不知

○意の奇みて人のつきなれなどふりて。物思ひをし。秋の夜を
候おも起明したるころ。夜を見て。彼も我がごとく物思ひをし。
ふなり。——いふれを。おきめし。——と。ふなり。——いふれ
らにと。え。後の方より。あがり。一人起明。我方ふの。か。ふ
なり。拾遺 二。いふれにもなかり。か。秋の夜を。候。おきめて。人を
あ。ふ。——。未向の。辞。い。を。を。て。候。おも。起。め。を。言。なり。

おきて。侍。人。後。ま。で。ふ。なり。ふ。れ。ど。男。の。れ。や。ま。て。な。か
ま。かり。と。と。申。を。ふ。と。ま。て。後。ふ。ま。で。ま。う。け。れ。ど。

平伊望朝臣女

○後。ま。で。ふ。なり。初。の。お。か。ふ。ひ。き。たり。——が。後。ふ
ま。か。ま。で。ふ。なり。ま。う。で。ふ。なり。男。の。お。や。ふ。ハ。ま。か。ま
が。れ。ふ。なり。ふ。なり。を。彼。男。の。親。の。ま。は。き。て。ま。は。ハ。お。か
ぬ。り。ど。や。う。か。う。い。ふ。に。つ。つ。へ。など。を。教。ふ。を。い。ふ。を。此。後。ま
伊。望。朝。臣。の。女。乃。す。及。び。て。ま。は。き。彼。男。の。ま。は。き。は。ま。を。ま。は。き。た
ま。と。い。ふ。なり。ま。は。き。の。親。の。ま。は。き。を。ま。は。き。で。ま。お。か。り
の。め。く。す。や。を。親。の。い。ふ。ま。へ。など。を。い。ふ。と。ん。の。か。き
す。の。や。う。な。れ。ど。も。い。ふ。い。ふ。あ。う。き。と。ま。う。い。ふ。ま。は。き。の。ま
ま。も。今。ま。の。め。く。ま。を。ま。は。き。の。ま。は。き。ま。は。き。と。い。ふ。一。つ。ま。は。き
ま。と。い。ふ。ま。は。き。ま。は。き。ま。は。き。ま。は。き。の。親。の。ま。は。き。を。ま。は。き。

き。その件へ通ひす。たる。あて。そと。より。も。親。の。な。か。
ら。い。ゆ。て。の。り。な。り。それ。を。世。乃。さ。ざ。り。た。る。者。お。り。ふ。
て。さ。う。ふ。み。づ。り。が。さ。う。き。わ。き。は。あ。る。を。毒。く。も。海。氏。物。環。
な。ど。を。よく。見。き。ば。ん。は。ら。う。り。な。り。但。し。男。女。お。あ。り。て。
お。こ。な。ど。い。つ。初。め。お。の。奇。の。か。ぎ。り。を。皆。以。定。な。り。と。い。ふ。子。
も。あ。る。を。中。よ。い。と。ある。ま。い。き。み。を。加。す。の。奇。な。ど。も。す。い。
あ。ま。ど。も。そ。こ。と。も。う。な。り。比。西。の。詞。も。な。
ど。ハ。上。よ。い。こ。が。め。く。ど。と。い。ふ。子。な。り。

秋ふかし。うきにの。も。き。く。白。き。海。乃。誰。が。こ。と。の。葉。子。か。う。な。う。ん。
○私を厭き。あ。ひ。た。る。の。源。さ。ふ。を。さ。る。も。さ。る。の。人。と。な。り。を。て。あ。ひ。
た。る。や。う。に。す。及。び。つ。ま。ば。今。か。く。訪。ひ。あ。う。も。は。ん。づ。か。う。来。あ。へ。る。
よ。い。あ。う。と。誰。が。を。へ。た。る。を。葉。子。か。う。さ。か。く。お。う。な。り。に。の。
と。云。て。か。の。親。の。い。さ。え。た。る。を。あ。う。ぬ。あ。も。あ。う。ぬ。さ。り。は。海。の。免。
か。う。な。り。

かまふ。さる。男。の。秋。と。い。ふ。い。け。る。ふ。つ。さ。う。い。け。る。ま。

昔の承香殿の河と記

と。う。の。秋。も。う。れ。さ。ず。ゆ。も。かり。ふ。や。家。を。人。の。た。の。え。し。
○と。句。を。訪。う。り。た。る。秋。も。さ。ゆ。い。と。云。さ。り。た。り。秋。を。原。の。さ。る。
節。な。る。も。秋。も。か。く。稀。ふ。訪。ひ。あ。う。い。元。来。我。ふ。頼。り。思。を。せ。あ。ひ。と。
る。も。一。鉢。の。清。ら。ハ。假。初。の。す。き。び。を。お。う。た。る。あ。や。と。な。り。假。を。
雁。ふ。そ。う。た。る。を。編。な。り。秋。ふ。厭。を。も。軽。く。餘。情。さ。う。え。た。る。な。り。
されど。秋。子。厭。を。み。く。え。る。も。一。荷。の。餘。情。な。り。あ。め。表。へ。た。う。
えん。さ。わ。ら。う。

紅葉と。いつ。こ。き。さ。い。で。と。を。女。の。も。と。に。き。く。ま。

○そ。こ。き。さ。い。で。を。抄。す。紅。の。脩。の。き。れ。な。り。と。あ。る。が。め。し。脩。布。
の。き。れ。を。さ。い。で。と。り。ふ。を。裂。拷。の。き。な。り。和。拷。を。み。き。き。と。も。

題

よみ人
ふも
あ

○古今下。秋秋の月ふべさやかよゝゝぜゝちおつゝみ糸の数をえよと
か。

たゞ我身あるを紅葉となりてん同ドなげきの枝ふゝゝあま

四二九

ふてハあゝに、
一、ふをもの
[者ハ]

あかりをるるべきものをかりがひ乃びつてかりふてゆくらん
○ 薤麻呂云。此のかりふてき。いかにも味よい。初はまぬきなり。故
考ふ。此こそ俳諧神のあらて。かりをかりてかりを以て為さ
なり。かりをるるべき物をとつて。秤の用なり。菅家万葉上ふ
かりのまばりて。かきも数えぬなぞわが意の意ふをかりけ
き。此のかりの秤の。とあるなぞをも。引合せて思ふべし。といふ。さふ
れふも出づ。
けののめ。さきより表。あかりをハ。明くあらばなり。いかに
むかりハ。かりらん。て。いづのほどふといふなり。万葉十。秋
風ふ山飛こゆ。かりがひ。かききささかる雲かきこし。
葉の花をるる。人のいひ傳けまじ。

○或人の家の茶室を人のをれるを主のいかりと。いふとがむ
るを。此の者のまて。うたるよりなり。いふと。いふと。を替
りなりと。つかり。此のまも。思ふより。替えり。を。いふと。
といふ。より。いふ。上。考中。三葉。あも。いふ。と。

よみ人不知

いづつて病小おかし花かよへんも——奴人やをりて
○主^{おも}は見えやしもせぶふすてねかし花かと思ひて主は賞懸せり
るんをもあしぬ人の折たるやとやなり。病小おかし
もた病小被^レ結^{オカ}たるものなり。主はすておくを軽く
えたるなり。上^{秋中}秋乃時の病小おかし女帝花よふ人なむぬま
つやふふ。

身なりいそぬ^{をり}などなげき^てはくろ^ろ。紀本則がもようい
かぞとやい^{とやい}あこそ^いて侍^はれど。返^へすに。葉の花を折^をてき^き。

○身なり出ぬ^{をり}。右位など昇進せぬ^{なり}。今世もな^{なり}
あが^あなり^{なり}の^{なり}なる^{なり}など^{なり}つ^{なり}は^{なり}回^{なり}ト。

藤原忠行

枝も^{なり}な^{なり}う^{なり}つ^{なり}ろ^{なり}秋の花^葉れ^葉ど^葉も^葉ハ^葉か^葉げ^葉な^葉く^葉なりぬ^葉なり

○父祖の蔭^{なり}ふ^{なり}より^{なり}て。子孫の出^{なり}身^{なり}す^{なり}る^{なり}を^{なり}蔭^{なり}と^{なり}え^{なり}。ハ^{なり}も^{なり}蔭^{なり}位^{なり}の^{なり}
を^{なり}花^{なり}の^{なり}枯^{なり}果^{なり}て^{なり}蔭^{なり}の^{なり}な^{なり}く^{なり}なる^{なり}ふ^{なり}ろ^{なり}人^{なり}た^{なり}る^{なり}な^{なり}る^{なり}。と^{なり}師^{なり}病^{なり}い^{なり}れ^{なり}
る。一^{なり}首^{なり}を^{なり}ハ^{なり}ハ^{なり}菊^{なり}の^{なり}枯^{なり}朽^{なり}く^{なり}を^{なり}忌^{なり}ま^{なり}バ^{なり}。孫^{なり}も^{なり}蔭^{なり}も^{なり}朽^{なり}なり果^{なり}
なりんと^{なり}つ^{なり}を^{なり}表^{なり}ふ^{なり}て。我^{なり}が^{なり}か^{なり}く^{なり}右^{なり}位^{なり}も^{なり}進^{なり}ず^{なり}ば^{なり}ある^{なり}。孫^{なり}ハ^{なり}表^{なり}
果^{なり}て^{なり}父^{なり}祖^{なり}の^{なり}蔭^{なり}も^{なり}か^{なり}く^{なり}なり果^{なり}なりと^{なり}つ^{なり}なり。又^{なり}也^{なり}子^{なり}。

我^{なり}が^{なり}か^{なり}く^{なり}昇^{なり}進^{なり}を^{なり}も^{なり}せ^{なり}る^{なり}あ^{なり}て^{なり}忌^{なり}ま^{なり}バ^{なり}。子^{なり}孫^{なり}ふ^{なり}て^{なり}ハ^{なり}る^{なり}か^{なり}げ^{なり}も^{なり}
く^{なり}表^{なり}へ^{なり}果^{なり}なりと^{なり}つ^{なり}を^{なり}あ^{なり}て^{なり}蔭^{なり}位^{なり}の^{なり}を^{なり}バ^{なり}ふ^{なり}え^{なり}られ^{なり}る^{なり}に^{なり}
も^{なり}あ^{なり}ん^{なり}か^{なり}。蔭^{なり}とは^{なり}選^{なり}叙^{なり}令^{なり}子^{なり}。凡^{なり}授^{なり}位^{なり}者^{なり}皆^{なり}限^{なり}年^{なり}廿^{なり}五^{なり}以^{なり}上^{なり}唯^{なり}以^{なり}蔭^{なり}出^{なり}
身^{なり}皆^{なり}限^{なり}年^{なり}廿^{なり}一^{なり}以^{なり}上^{なり}云^{なり}。凡^{なり}蔭^{なり}皇^{なり}親^{なり}者^{なり}親^{なり}王^{なり}子^{なり}。從^{なり}四^{なり}位^{なり}下^{なり}云^{なり}。凡^{なり}五^{なり}位^{なり}以^{なり}
上^{なり}子^{なり}出^{なり}身^{なり}者^{なり}一^{なり}位^{なり}嫡^{なり}子^{なり}。從^{なり}五^{なり}位^{なり}下^{なり}云^{なり}。三^{なり}位^{なり}以^{なり}上^{なり}蔭^{なり}及^{なり}孫^{なり}降^{なり}子^{なり}一^{なり}等^{なり}云^{なり}。
などある。これ蔭位の令なり。

返一

ともつり

あ^{なり}げ^{なり}く^{なり}も^{なり}そ^{なり}の^{なり}の^{なり}つ^{なり}ろ^{なり}花^{なり}な^{なり}れ^{なり}ど^{なり}子^{なり}代^{なり}の^{なり}秋^{なり}も^{なり}ぞ^{なり}か^{なり}げ^{なり}ハ^{なり}あ^{なり}げ^{なり}ん^{なり}
○年^{なり}に^{なり}て^{なり}さ^{なり}く^{なり}齡^{なり}を^{なり}延^{なり}ぶ^{なり}と^{なり}つ^{なり}葉^{なり}の花^{なり}な^{なり}れ^{なり}ど^{なり}か^{なり}げ^{なり}な^{なり}く^{なり}なる^{なり}など^{なり}つ^{なり}
り^{なり}も^{なり}い^{なり}ろ^{なり}か^{なり}あ^{なり}ん^{なり}子^{なり}代^{なり}の^{なり}秋^{なり}を^{なり}終^{なり}え^{なり}未^{なり}だ^{なり}く^{なり}蕃^{なり}なりと^{なり}え^{なり}て^{なり}父^{なり}
祖^{なり}の^{なり}蔭^{なり}の^{なり}な^{なり}く^{なり}なる^{なり}など^{なり}つ^{なり}ハ^{なり}い^{なり}ろ^{なり}か^{なり}あ^{なり}ん^{なり}き^{なり}返^{なり}て^{なり}昇^{なり}進^{なり}る

て。筆をのびて——といふなり。 葉の落ちもて 齡を延ぶといふなり。ハ
風俗通等ふる。南陽酈縣乃甘谷なり。慈童などの。もろこの
故事より多くといふ。

延喜寺時秋ハ一うさけきばなける。

つゆ記

秋の月光さやけかきふもみぢ葉乃おつる影さへ見えわさるらんかきふ

○古今秋上。向ふもふもうちかき——とぶかりの教さへえゆる秋の夜
の月。

秋風抄又

よみ人抄二あづい

秋風抄又ふとくつをもちまぬかりがハ喜かふともかきうさうなん
○つなまゝなをもちまぬらん。かくのぬく——とまもゆきとなり

と抄子あるやゆきかへん。 又思ふ人の侍ひて他へりなり。に
送る人のようたるなどふあ——か。須磨老源氏もあはれひまて。
る子を良清とよめて旅のそとぶかりがハもつふあこれぬほぞぞ
なぐさむといへるなどのさかふあはれなり。されどこそ試
ふなり。 藤原公抄の後のぬきやて。さき下句のかへるとも
とりよ。ゆきまをかけ。つをもちまぬと。なもかきぬとを。か
け合せるなぐさ——といふ。

をととの花かづつゆきとて葉あり葉のあつとまきふふ。さひさき——
たりくれが花子つとくそへてはのそけい。

○抄子。葉をわづらひかきうりなり。一説。童舞のかざりの花
さ。さなくともふやとあれども。たかあもんはがさき説

